

年間第十八主日

2010.8.1

ルカ 12・13-21

今年の聖心の祝日までの一年間を、聖ビアンネの没後 150 年を記念して「司祭年」と定められた教皇様の呼びかけに応じて、私たちは特別に司祭たちのために祈る「司祭年」の一年として過ごしてまいりました。この間、聖ビアンネを保護の聖人と仰ぐ私たち高円寺教会の共同体は、司祭年の巡礼教会の役割を果たすべく、力を注いでまいりました。司祭年の一年は終わりましたが、これを機に、あらためて、これからも、私たちの高円寺教会の保護の聖人である聖ビアンネの記念日を大切にしたいと思っております。今週の 8 月 4 日が聖ビアンネの記念日ですので、今年からはその前の日曜日のミサで、私たち高円寺教会の共同体全体の霊名の祝日として、聖人の取次ぎと導きを願ってともに祈りたいと思いません。

洗礼のお恵みをいただいたわたしたち一人ひとりに、霊名の保護の聖人がいてくださるように、私たちの高円寺教会も、東京教区の新しい小教区として誕生した時に、聖ビアンネを保護の聖人としてそのお名前をいただきました。霊名の聖人のお祝いをするには、最近ではあまり一般的に行われなくなりましたが、洗礼のときにそのお名前をいただいた、保護の聖人の記念日をお祝いする霊名日のお祝いの習慣は、カトリックの信者である私たちにとって、これからも大切にしてゆくべき伝統ではないかと思えます。一人ひとりの人の誕生日を、その人を大切に思う周囲の人々が一緒にお祝いするように、霊名の聖人のお祝いを共にすることが、一人ひとりの信仰の仲間の洗礼のお恵みとともに喜び合い、信者同士の絆を大切にすよい機会となると思われるからです。同じように、私たち高円寺教会の保護の聖人である、聖ビアンネの記念日をともに祝うことも、私たちの信仰の拠りどころとしてこの高円寺教会が与えられたことを、創立の頃の先輩方の心を思い起こして喜びあい、私たち高円寺教会の信者どうしとしての絆を大切にすよい機会となると思えます。

洗礼の時にそのお名前をいただいた霊名の保護の聖人は、私たちがそのお名前をいただいたことによって、神さまのみもとにあって、私たちへの特別な親しさをもって私たちのために取り次ぎ、私たちの信仰生活を守り導いてくださる聖人ですが、その聖人が生きた具体的な信仰者としての模範が、私たちに特別なメッセージを与えてくれる聖人でもあります。

聖ビアンネの生涯が今の時代の私たちに投げかけている根本的なメッセージは、その頑ななまでに揺るぎのない来世志向の姿勢ではないかと思えます。キリ

スト教の信仰における来世志向とは、イエス・キリストの十字架の死と復活によって開かれた、神のみもとにおける、至福の永遠のいのちにあずかることを、私たちの人生の究極の目標とするということです。このことは、今日の第二朗読のコロサイの教会への手紙が語っているように、私たちキリスト者の、信仰に基づく最も基本的な生活態度であるはずで

す。繰り返しになりますが、今日の第二朗読の聖書のみことばをもう一度、ご一緒に味わって見たいと思います。

「あなたがたは、キリストとともに復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座についておられます。」このように、コロサイの教会への手紙は私たちに呼びかけています。「キリストとともに復活させられたのですから」とは、洗礼によって、私たちはキリストの復活のいのちにあずかる者とされたのだからということです。「上にあるものを求めなさい」とは、天に昇って、全能の神である父の右の座についておられる、主イエス・キリストとの永遠のいのちの一致を求めなさいということです。上にあるもの、つまり、私たちの人生の究極の目標である、イエス・キリストの復活のいのちに結ばれて、永遠の神のみもとにおける至福のいのちへの希望を失うことのないように、地上のものに過度の心を引かれ、執着しないようにとコロサイの手紙は勧めているのです。さらに「あなたがたは死んだのであって」とは、私たちが受けた洗礼は、イエス・キリストの十字架の死に結ばれて、それまでの自分の生き方、この世のありように死んで、キリストとともに新たな復活のいのちを生きる者とされたのだからということです。そして、私たちが信仰によって受け入れた、復活のいのちは今はまだ、十分に明らかになってはいないけれども、キリストが現れるとき、つまり、イエス・キリストの再臨の時に、私たちの復活の永遠のいのちも、キリストとともに栄光に包まれて明らかになるとの、信仰による希望をコロサイの教会への手紙は述べています。

このような信仰から導き出される、コロサイの教会への手紙が指示するキリスト者としてのこの世における生き方は、私たちには激烈すぎて、ついていけないように感じられるかもしれません。「だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。・・貪欲は偶像崇拜にほかなりません。・・古い人をその行いととも脱ぎ捨て、造り主（である神の）の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」

ビアンネの生きた時代のフランスの教会は、それまでのキリスト教的価値観を覆す、人間中心主義をモットーとするフランス革命直後の、教会にとっては大きな危機の時代でした。そのような時代にあって、ビアンネは、今日私たちが聴いたコロサイの教会への手紙が示しているような、伝統的なキリスト教的来世

志向的生き方を、身をもって貫き、アルスの教会の人々にその価値観を説き続けたのです。驚くべきことは、フランスの忘れられたような小さなアルスの村の主任司祭であったビアンネの、来世志向そのものの、一見、時代錯誤のように思える生き方とそのメッセージは、世俗主義に向かって大きく踏み出した、あの時代の人々の心を打ち、ビアンネのもとに人々を引き付けたのです。来る日も来る日も、押し寄せる人々のために一日の大半を告解場に座り続けたビアンネがしたことは、コロサイの教会への手紙に語られているように、人々の罪の告白を聴き続け、上のものを求めるために、地上的なものを捨て去る決意を励ますことであつたのです。

今日の第一朗読で聴いたみことばは有名な、伝道の書、コヘレトのことばが語るこの世のむなしさを語っています。けれども、聖書が語るむなしさとは、この世の成功から見放された挫折の中で私たちが経験するむなしさとは異質なものです。真に人生の究極の目標を信仰によって「上にあるもの」の中に見出すことが出来た者たちにとっては、この世の事柄に執着する生き方そのものが、むなしいと言っているのです。

イエスのもとに来て遺産相続の問題の解決を願った今日の福音に登場した人は、イエスのあのおことばを聴いて、どのように感じたのでしょうか。そのあとでイエスが語られた今日の福音のみことばを聴いた人々は、どのような感想を持ったのでしょうか。

ビアンネのもとを訪れて、信仰の新たな目覚めを求め、それを体験した人々は、時代こそちがえ、本質的には私たちと変わらない、この世の物事に振り回され、それのみが自分の生きる人生の意味を決すると思いつんでいた人々です。

今日、私たちの高円寺教会の保護の聖人であるビアンネの記念を祝う私たちは、今のこの時代に、ビアンネが生きた信仰の姿勢をどのように感じているのでしょうか。聖ビアンネを記念する今日のミサで、ビアンネが、そして、私たちの主イエス・キリストが、「あなたがたは信仰によって何を求めようとしているのか」と問いかけている声を、しっかりと受け止めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高